

※新木駅舎の改造及び下新木踏切の改良 Q & A (抜粋)



宏：新木駅舎の改造スケジュールを確認したい。
 建設部長：平成 22 年度基本設計、平成 23 年度実施設計、平成 24 年度から 25 年度建設工事、平成 26 年度共用開始というスケジュールで進めている。

宏：基本設計において北側斜線の関係で用地取得が必要になると考えられるが、用地確保の見込みは。

建設部長：今年度進めている基本設計は、事業の実現化を図るためにも、北側の用地取得が必要ないように検討を進めていくが、止むを得ず用地取得が必要になった場合はスケジュールの変更が考えられる。用地の取得が必要かどうかは年内に判断したい。

宏：新木駅南北を同時にエレベータ、エスカレータを整備すること、暫定の南北自由通路（跨線橋）の撤去等、改造の総費用はいくらになるのか。

建設部長：総事業費の算出については新設の通路、エレベータ、エスカレータ、階段、これらの設置に伴う仮設費、用地取得の有無、構内バリアフリー負担金など考えられるが、全て不確定のため、現段階では算出はできない。

宏：必要となる財源の確保、特に社会資本整備交付金の確保、我孫子市の中期財政計画との整合、用地取得も視野に入れる中で、スケジュールどおりに事業が進むように最大限の努力を行うように強く要望したい。

建設部長：スケジュールどおりに事業が進むように努めたい。

宏：新木駅南北交流道路の要である下新木踏切を早期に拡幅し、子どもたちの通学路の安全対策を実現していくための戦略は。早期拡幅に努めてほしい。

建設部長：下新木踏切の拡幅は踏切から国道 356 号までの 130 メートルの歩道用地を確保することが、この事業の最大の課題であると認識している。用地交渉は過去のいきさつから非常に難航が予想されるが、誠心誠意、権利者と交渉していきたい。一日も早い完成を目指していきたい。

◆#####◆

宏と語る小さな小さなティーパーティーのお知らせ

6月議会報告と「これで良いのか、我孫子市は」の視点で、意見交換をする和やかなティーパーティーです。
 どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。



◆日時：平成 22 年 7 月 24 日(土) 午後 6 時～7 時 30 分

◆場所：布佐南近隣センター(会議室)

◆その他：参加費無料・事前予約等不要です。

◆#####◆

宏と語る小さな小さな
 ティーパーティー開催中！
 お気軽にお電話下さい。

行政相談もこちらへ！
 ご意見をお待ちしています。

いんなん ひろし
 印南 宏
 後援会事務局 7 1 8 4 - 2 8 6 0
 自宅 7 1 8 9 - 1 5 9 8
 我孫子市布佐平和台 7 - 1 - 1 8
 ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>
 E-mail innami@mod.biglobe.ne.jp

現場主義

ほっと Communication

印南 宏後援会 会報
2010. 6. 29 No.47

いよいよ参議院選挙本番へ！

国政の世界は、鳩山内閣から、「強い経済、強い財政、強い社会保障」を訴える菅内閣へ変わり、再スタートしました。政治は皆さんの一票で変わっていきます！来る 7 月 11 日は参議院議員選挙です。期日前投票も活用しながら投票には必ず行き、私たち一人ひとりの思いを国政に反映させましょう。



サッカーW杯南アフリカ大会

海の向こうでは 4 年に一度の大イベントであるサッカー W 杯の南アフリカ大会の熱戦が続いています。世界ランク 45 位の日本チームは初戦で格上のカメルーンに勝利、その後、勢いに乗り、デンマークにも 3 対 1 で勝利し、見事に一次予選を突破しました。決勝トーナメントでの活躍が期待されています。

この W 杯は「アフリカ人であることを祝おう」をスローガンに初めてアフリカで開かれています。開催国のマンデラ元大統領は「W 杯はただの試合ではない。言葉や肌の色、政治信条や宗教を超え、世界を一つにできるサッカーの力の象徴だ。」と訴えました。現在のアフリカ諸国は厳しい貧困、飢餓、内戦、疫病などで苦しんでいます。これら乗り越えるべく、希望を込めた W 杯大会が今、行われています。

歴史的快挙、小惑星探査機「はやぶさ」

サッカー W 杯「初戦勝利」とともに、私たちに多くの感動と勇気を与えてくれた出来事に、小惑星探査機「はやぶさ」の地球への帰還があります。地球から約 3 億^{km}・離れた小惑星「イトカワ」で調査を行った「はやぶさ」が何度ものピンチを乗り越え、地球に帰ってきました。7 年間にわたる「はやぶさ」の宇宙の旅はまさに、波乱万丈。途中、幾度もトラブルに見舞われながらも、それを乗り越え、地球—太陽間を 20 回往復するくらい長い、60 億^{km}・を飛行して果たした偉業です。最後は流れ星と化して、燃えつきながらもカプセルを地球に届けさせた「はやぶさ」。日本の技術のすごさを世界に示した人たちに称賛の拍手と、何事にも決してあきらめてはいけないことを教えてくれた「はやぶさ」に、お疲れさま、良くやったと心から叫びたい心境です。

♪ 是非、ご覧下さい!! ♪

- ◆印南宏が代表を務める「あびこ21」ホームページ <http://abiko21.exblog.jp/>
- ◆我孫子市公式ホームページ <http://www.city.abiko.chiba.jp/>



家畜の伝染病 広がる波紋!

そんな中、家畜の伝染病である口蹄疫が宮崎県で猛威を振るっています。4月20日に一例目の陽性反応が出て以来、感染を封じ込められずに被害が拡大し、殺処分対象の家畜は県内の牛、豚のおよそ2割に当たる約30万頭に上っています。初動段階での油断と危機感の欠如が拡大の要因と言われ、消毒対策等の機敏な対応がなされず、戦後最大の畜産被害へと事態は深刻さを増しています。国は口蹄疫を封じ込めるために特別措置法を成立させ、一刻も早い終息に向けて努めていますが、目途はたっていません。季節は梅雨に入り殺処分の作業が遅れるとともに、消毒液は雨で流されやすく、また紫外線の減少とも相まってウイルスの生存期間が長くなります。国と地方両方で、口蹄疫根絶に向けての一丸となった対策が急務です。一刻も早い宮崎の畜産復興を心より願っています。



★6月定例市議会 主な内容★



6月の定例市議会は6月7日(月)から6月23日(水)までの、17日間行われました。今議会は個人質問のみが行われる議会であり、全部で15名の議員が質問に立ちました。私は二日目の午後、トップバッターでの質問者として登壇しました。教育行政関連、都市行政関連、そして喫煙関連に関して質問と提言を行いました。教育行政関連では、全国学力テストの調査方法が全校参加方式から抽出方式に変更された問題、来年度から始まる新学習指導要領に対する教育委員会の対応、インターネットの普及によるネットいじめ対策、今年で4回目となった子ども議会のあり方を取り上げました。都市行政関連では、手賀沼を周回する自転車専用道路の築造、新木駅舎の改造(エスカレーター設置等)と下新木踏切の早期改良を質しました。そして喫煙関連では、厚生労働省の全面禁煙を求める通知への対応、受動喫煙対策について質問と提言を行いました。

議会に執行部から9議案が提出され、全て可決されました。議案としては、我孫子北近隣センターの設置と寿市民センターを廃止するための「我孫子市集会施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について」、新たに整備する「我孫子インフォメーションセンターの設置及び管理に関する条例」、我孫子市の緊急通信指令機器のリース解約(柏市と通信指令業務の共同運営を開始したことによる)に伴う賠償額を決定する「損害賠償額の決定」、東消防署の老朽化した消防車両を更新する(新たな消防ポンプ自動車の購入)ための「財産の取得について」などが提出され審議されました。

また請願では、「国民健康保険事業の国庫負担金を元に戻すように市議会として国に意見書を提出して下さい(請願第33号)」、「2011年度の国民健康保険税を値上げしないで下さい(請願第34号)」の2件が審査されました。請願第33号は可決され、「国民健康保険制度の改善を国に求める意見書」を関係大臣に提出しました。

＜主な争点となった行政課題＞



- 本市議会では、以下の行政課題が争点となりました。
- ①全国初、「自治紛争処理委員会」の勧告を受けて(根戸新田の今後)
 - ②新たに設置する我孫子インフォメーションセンターのあり方
 - ③寿市民センターの廃止と商工会への建物無償譲渡について

『住んでよかった』そして『住んでみたい』といわれる街に

◆印南宏は6月市議会で個人質問に登壇しました。主な質疑内容は次の通りです。◆

22年6月 印南 宏 個人質問要旨

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. 教育行政 | 2. 都市行政 |
| ①新学習指導要領 | ①歩行者と自転車優先のまちづくり |
| ②教育のストレス対策 | ②※新木駅舎の改造及び市も新木踏切の改良 |
| ③※全国学力・学習状況調査 | |
| ④ネットいじめ対策 | 3. 喫煙マナーの徹底と受動喫煙対策 |
| ⑤子ども議会の見直し | |



※全国学力・学習状況調査 Q&A (抜粋)

宏:「全国学力テスト」は、全校参加方式から約3割の学校の抽出による調査とする方式に変わった(ただし参加希望学校は参画可能)。我孫子市からは、市内の小学校13校中7校(1小、2小、4小、根戸、湖北台西、高野山、並木)が、中学校6校中2校(我孫子中、久寺家中)が文科省から抽出されテストに参加した。全国的には、抽出方式への変更にもかかわらず多くの学校(約74%)が希望参加したが、我孫子市教育委員会は希望参加せず、抽出学校のみでの参加となった。その理由はなにか。
教育長:調査実施後の採点、分析の精度、財政負担や学校現場の負担を考え、校長会と協議の上、現状での全校実施は難しいと判断した。県の標準学力テストの結果分析や学校評価アンケート等を活用することで市や各学校の状況等を把握できると判断した。

宏:なぜ各学校において保護者に希望参加の是非を問わなかったのか。
教育長:財政面やデータ処理等の裏付けがあれば、保護者に参加の是非を問うこともしたが、決定までの期間や校長会の意向等を踏まえ、あえて希望は取らなかった。

宏:全校参加方式から抽出方式に転換した場合の課題と対策は。
教育長:抽出方式のデメリットは、市や学校ごとのデータが得られないこと、年度ごとに抽出校が変わるのでデータの比較ができないこと、公平さを欠くような感覚を保護者に与えること等が考えられる。参加しなかったことの対策としては、千葉県標準学力テストで代替していくことができると考えている。また、生活習慣や学習習慣の把握は、各小中学校で実施している学校評価アンケート等を活用したいと考えている。

宏:過去三年間の全国学力調査で得た学習効果は。
教育長:過去三年間の全国学力テストのメリットは、学力や学習・生活習慣の状況について客観的なデータが得られたことである。デメリットは実施学年が限られていたので、全学年のデータが得られなかったことである。

実施により把握できたことは、基礎・基本の定着が我孫子市では比較的図られていること、知識活用型の学力いわゆるPISA(注1)型の学力に課題があること、「早寝、早起き、朝ご飯」等の生活習慣が比較的身に付いていること、家庭学習の時間差が大きいこと等である。

その結果から、朝読書や朝自習の時間を設ける、授業の中に学び合いの場面を取り入れる、思考力や表現力を重視した活用型の授業研修を進める、「分かる授業」の校内研修を積極的に進める、ピア・サポートプログラム(注2)の推進を図る、問題解決力を高める学習方法を取り入れるなど、教育課程や授業の改善工夫、研修内容の改善に役立ていく。また、保護者会等で家庭学習の時間の確保や、規則正しい生活リズムづくりの協力を積極的に行っているところである。